

第 38 回基本政策部会 議事要旨

1 日 時

令和 6 年 2 月 21 日 (火) 15:00～16:00

2 場 所

中央合同庁舎第 4 号館 12 階 全省庁共用 1208 特別会議室

3 出席者

(1) 委 員

白坂部会長、常田部会長代理、石田委員、臼田委員、漆間委員、片岡委員、栗原委員、篠原委員、角南委員、中須賀委員、南委員、山崎委員

(2) オブザーバ

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 石井理事

(3) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局

風木局長、渡邊審議官、滝澤参事官、山口参事官、松本参事官

(4) 関係省庁

内閣官房内閣衛星情報センター管理部	市川管理部長
総務省国際戦略局宇宙通信政策課	扇課長
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課	上田課長
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課	竹上企画官
経済産業省製造産業局宇宙産業室	伊奈室長
国土交通省大臣官房技術調査課技術開発推進室	村上室長
国土交通省大臣官房技術調査課	山崎補佐
農林水産省大臣官房政策課技術政策室	齊賀室長
環境省地球環境局総務課気候変動観測研究戦略室	石原補佐
防衛省防衛政策局宇宙・海洋政策室	中野屋室長

4 議事要旨 (○：意見等)

事務局から参考資料 1～5 に基づいて説明。委員から以下の意見があった。

<宇宙技術戦略について>

○ 開発された技術を、実装し、商業化に繋げていくことが重要。今回技術ロードマップで記載を試みる開発・実装・商業化のスケジュールを、宇宙基本計画工程表とリンクさせていくよう、努力いただきたい。商業化に向けては、政府が調達の意志を示すなどの投資環境の整備も必要。

○ 技術戦略に記載された個々の要素技術を組み合わせ、システムとして戦略

的に活用していくことも重要。利用省庁を含めたユーザー側が、宇宙技術を活用していくイメージを持つべき。

- ユーザーからニーズが生まれ、技術からもニーズが生まれてくる。双方がすり合って事業化されると、工程表に記載するようなプロジェクトを行うことができる。
- 事業会社の立場からすると、技術戦略の上位に事業戦略がある。ローリングの過程においてはこの事業戦略を踏まえた産業戦略について、もっと議論を深めることができると良い。
- 国レベルで横断的に本邦初の宇宙技術戦略をまとめたのは非常に意義がある。民間企業にとっても社内に提案を通していく拠り所となっていくため大きい。
- 宇宙関係技術は、経済安全保障上の重要技術とのオーバーラップも多い。民間企業の参画に当たっては、セキュリティクリアランスを含めた周辺環境の整備も必要。
- ある程度技術レベルの高度化が進んだ後は、コスト低減化の観点も重要。目標とする技術レベルを示せるとよい。
- ローリングに当たっては、各技術分野において、世界のトレンドを把握し、政府に提言を行うことができるような、拠点となるコミュニティが必要。ステークホルダーとの対話を強化し、コミュニティづくりができるとよい。
- 宇宙技術戦略とその技術ロードマップを踏まえ、実際にどの技術に集中投資をする等、どのように予算を含めたリソースを配分していくのか、内閣府が音頭を取って、各省庁と連携し、取り組んでほしい。